

受付番号

)

## 留学・研究計画書

氏名 波戸 愛美	留学機関名 Institut Français du Proche-Orient (フランス近東学研究所)
留学先国名 シリア	留学期間 西暦 2008年10月～2010年9月
研究テーマ イスラムにおける奴隷と奴隷像：『千夜一夜物語』と同時代史料との比較を中心に	
研究テーマの説明 (テーマの学術的・社会的意義についても記載してください)	
<p>本研究のテーマは、中東に中世より伝わる口承文学作品である『千夜一夜物語』と、同時代に書かれた他のアラビア語の書物との比較検討によって、前近代中東社会における奴隷一般の姿を理解することにある。『千夜一夜物語』は、日本や欧米では『アラビアン・ナイト』の名称で知られるアラビア語説話集である。だが、数十編の詩をのぞいて作者不詳であり、また個々の作品の成立過程も困難であるため、史料として使用されることはほとんどなかった。しかし、『千夜一夜物語』は数少ない民衆の手による史料であり、通常の歴史史料には現れることの少ない一般庶民の心性・風俗も窺い知ることができる貴重な文献である。</p> <p>そこで、申請者は『千夜一夜物語』ならびにそれと同時代・地域の文学作品、及び歴史史料に着目し、中東において欧米や中国など他地域とは全く異なる独自の制度・様相をみせていた「奴隷」という存在を手がかりに、中東社会を考察することを主眼としている。</p> <p>「奴隷」という言葉からは、差別されたアメリカ大陸の黒人奴隷が想起される。このため、前近代のアラブ中東社会における奴隷の広汎な使用もまた、その後進性の象徴と解釈される傾向にあった。加えて、これまでの前近代中東史における奴隷研究は、史料的な問題点から、奴隷出身でありながら軍事政治支配層を形成した軍事奴隷マムルークに関するものが中心であり、史料が限られる他の男奴隷や宦官、女奴隷に目が向けられることはあまりなかった。しかし、『千夜一夜物語』で無名の作者たちが深い意図を持たずに描いた奴隷の姿は、他史料では知ることのできない当時の中東社会、とくに一般庶民を含むさまざまな階層の人々の奴隷像を反映している可能性がある。</p> <p>申請者は、現時点までに提出した論文において、1. 『千夜一夜物語』中で記述される人々の心性に見られる中東社会、2. 正統的な歴史史料とされる年代記などに現れる歴史叙述としての中東社会、3. これら両者の比較から浮かび上がる物語と歴史の共通点と相違点を比較分析することにより、男女の奴隷が非常に広範な範囲で中東社会に浸透し、軍事奴隷のみならず、家内奴隷が自由人には不可能な男女隔離がなされている場での仕事を担うなど、社会生活で重要な役割を果たしていた事実を指摘した。学術的意義としては、今まで歴史史料として使われてこなかった『千夜一夜物語』を中心とした文学作品の新たな使い方を提示することで、理論の枠組みに新たな視点を追加し、研究全体に寄与できると考えている。また、欧米やアフリカの書物・映画などでも取り上げられている『千夜一夜物語』を原典に侵って深く理解し、現代では廃止された奴隷制度を当時の中東内部の視点から分析することは、現代の社会全体に対する理解にも繋がる。加えて、アラビア語原典による文学研究や歴史研究が充実すれば、それがアジアやヨーロッパ等の他の地域との比較の観点にも貢献できると確信している。</p>	

# 成果報告書

記入日 2011 年 01 月 10 日

氏名 波戸 愛美	留学先国名 シリア	所属機関 フランス近東学研究所
研究テーマ: イスラムにおける奴隷と奴隷像『千夜一夜物語』と同時代史料との比較を中心に		
留学期間 : 08 年 12 月 ~ 10 年 12 月		
<p>この度、シリア・ダマスカスへの二年の留学を無事に終えることができました。謹んでお礼を申し上げますと共に、その経過と成果を報告させていただきたく存じます。</p> <p><b>I. 留学中の主な活動について</b></p> <p>申請者のシリアでの主な活動は 1. 受け入れ先であるフランス近東学研究所での活動、2. アラビア語刊本・写本収集活動、3. 研究活動の三点に集約されます。</p> <p><b>1. フランス近東学研究所における活動</b></p> <p>当初の予定通り、シリア・ダマスカスのフランス近東学研究所 (<a href="http://www.ifporient.org/">http://www.ifporient.org/</a>) に最初の一年間はアラビア語コースの学生として在籍し課程を修了し、最後の一年間は研究員として在籍させていただきました。</p> <p>学生コースでは古典アラビア語文学、現代アラビア語文学、イスラム思想論、メディア論、口語アラビア語シリア方言、現代アラブ史、作文等のコースを修了しました。</p> <p>特に口語アラビア語シリア方言の授業については、2 年前にダマスカス大学のアラビア語シリア方言コースが廃止されて以来 2010 年度現在まではフランス近東学研究所のみであるため、非常に貴重な機会をいただきました。また、現存する最古の物語としての『千夜一夜物語』ライデン版の写本は 14-15 世紀シリアのものでありますが、現在まで変わらない語彙も多いことがわかり、大きな収穫を得ることができました。</p> <p>加えてフランス近東学研究所附属図書館は本国フランス・パリ大学と連携した膨大な蔵書を有しており、特にヨーロッパにおけるアラブ・イスラム研究の雑誌及びシリア・レバノン・ヨルダン・イラクといった本国・近隣諸国で発行された雑誌と書籍は日本国内に所蔵がなく、かつ絶版で購入・閲覧も不可能なものが多く、そのような貴重資料を含めた幅広い文献収集を行うことができました。</p> <p>次の一年は研究員として在籍しながら自分の研究を続け、同時に私の専門であります古典文学・歴史</p>		

及びアラビア語古典文法についてアルファーン・マスリー教授とハーフィズ・アルワリード教授に個人指導をいただくことができました。特に自分の研究テーマである『千夜一夜物語』ライデン版および『マカーマート』などのアラブ古典文学については、両先生に古典アラビア語のテクニカルターム・文法上の重要な指摘を受けました。

また、フランス近東学研究所内で定期的に行われる学会にも参加させていただき、膨大な数のアラビア語発表を拝聴させていただきました。

## 2. アラビア語の刊本・写本収集活動

私の専門は古典文学・歴史であるために研究は主に文献を中心とした次の手法を用いています。

① アラブ古典文学、具体的には研究テーマである『千夜一夜物語』や正統派古典文学としての地位を確立しているハリーリー、ハマザーニー『マカーマート』など校訂され刊本として出版されている文献、及び『日録』など校訂され刊本として出版されている歴史年代記、及び写本、歴史文書の収集。

② 上記の収集した資料の精読。

③ それらを翻訳・情報を整理しデータベース化し、将来的にはテーマごとに論文としてまとめる。

今回の留学では、アラブ・イスラム圏の研究の歴史が浅く、収集資料も少ない国内では困難な①の作業を中心に、②・③の作業を平行して行いました。

①の作業につきましてはフランス近東学研究所附属図書館、国立アサド図書館、国立ザーヒリーヤ文書館及びヒジャーズ駅に位置します古典文学・歴史専門書店であるアブー・ウバーダ書店、マルジェ広場に位置するアル・アラム書店及びフランス近東学研究所書籍部を中心に購入・複写が可能な書籍・雑誌・雑誌論文の調査と請求、購入と複写を行いました。

フランス近東学研究所附属図書館以外での経過と成果を述べますと、国立アサド図書館におきましては『千夜一夜物語』を中心とする古典文学作品の写本調査を行いました。『千夜一夜物語』の研究におきましてはフランス・イギリス・ヴァチカン市国といったヨーロッパ諸国が所蔵する写本を元にした研究が主流であり、中東での写本調査は未だ進んでおりません。特に『千夜一夜物語』ライデン版はシリア写本をフランス国立図書館が購入したものであるため、それとの比較対象になりうるという点で同じ現地であるシリアでの写本調査を丹念に行いましたが、19世紀以前の写本は存在しないことがわかりました。

シリア国内で最大の所蔵を誇るザーヒリーヤ文書館でも調査を行いました。2008年度まで改装のため閉館、そして改装終了後も文書のデータ化のために実際に使用できるようになるために実際に利用できた期間は非常に短いものでした。しかし2010年に開館してから行った調査で、16世紀のシリアにおける奴隷解放文書を数点筆写することができました。

但し、シリア国内の国立図書館・及び文書館においては原則的に複写は禁止、購入も不可、但し国立アサド図書館においてはその図書館が所蔵していない写本との交換のみを認めるという独自の方式をと

っておりますため、欧米・国内での調査とは異なる準備を余儀なくされました。

シリアは未だ国としても新しく、調査地としての環境は発展途上であるとの印象を強く受けた次第です。

### 3.シリアで行った研究活動

アラビア語学習(正則アラビア語及び口語アラビア語シリア方言)及び文書収集は上記の通り行いました。それと平行して収集した資料の精読、及びそれらを翻訳・情報を整理しデータベース化するという作業を行いました。

集めたアラビア語資料と元来の研究テーマである『千夜一夜物語』ライデン版を元に精読を進め、フランス近東学研究所に於いてアルファーン・マスリー教授とハーフィズ・アルワリード教授に教示をいただきました。

アラブ古典は独自の文法規則に従って書かれていることも多く、特に『千夜一夜物語』は「語り」の物語であるために正則語と口語が入り混じった中世アラビア語と呼ばれる話し言葉が多用されております。かつ、エジプト方言とシリア方言も混合されているために辞書のみでは解釈が不可能な箇所が存在しましたが、今回の留学期間中両教授の特に古典特殊文法及びエジプト口語方言が多数混在しているとの示唆をいただき、今までと異なる新たな視点を得ることができました。古典特殊文法・テクニカル・タームについても同様です。

また、今回新たに国立ザーヒリーエ文書館で入手しました奴隷解放文書の翻訳・データベース化作業も集中的に行いました。私が研究の対象といたします16世紀以前のものには論文としてまとめるには点数が少ないのですが将来的に他地域のもの等も併せてまとめる方法を模索しております。

以上、今回の留学の成果といたしましては、1. アラビア語正則語及びアラビア語口語シリア方言の習得、2. 日本では入手の困難なアラビア語及び欧米語の刊本・論文、シリア独自の歴史文書の収集、3. 『千夜一夜物語』ライデン版が書かれているアラビア語についての新たな知見があげられます。

### 4.留学全般についての感想

最後に、留学全般についての感想を述べさせていただきます。

フランス近東学研究所は外国人向けのアラビア語の学校であるため、設立国であるフランスからの留学生はもちろんのことイギリス・ドイツ・イタリア・ルーマニア・スイス・ノルウェー・カナダ・アメリカといった主に欧米諸国からの留学生の方々と席を並べて勉強することができました。アジア圏からの留学生は残念ながら自分だけでしたが、他国のアラビア語を学ぶ院生の方々の意見を日々伺うことが出来、とても充実した期間を過ごすことができました。そして、国籍はイギリス・カナダといった欧米でも出自はパキスタン系のイスラム教徒(ムスリム)の方々も散見され、アラブ・イスラム研究に取り組む若手研究者の幅の広さに圧倒されました。

次に、私のような「過去」である古典、『千夜一夜物語』といったフィクションを研究対象としており

ますと書籍や文書といったものが研究の中心となり、「今」の生活や人々に触れる機会はほとんどありません。特にこのような長期間となるとなおさらです。

ですが今回二年間という長きにわたる時間をいただき、実際に『千夜一夜物語』が書かれた地域のひとつに住んでみて、例えば挨拶等で私の研究対象とする中世と同じ表現がまだ使われていたり、伝統的な結婚式を見る機会がありましたときに作中で描写されているのと同じような衣服を身にまとっていたりといった共通点を目の当たりにでき、「過去」と「今」の強い繋がりを実感いたしました。

加えて、「旅人をもてなす」といったアラブ世界の伝統を実際に受けてみて、その手厚さに感動する反面、食べきれないほどの食べ物をこちらが本気で無理だと懇願するまで出されるといった苦勞をしてみたり、文字で書かれたのだけではない実際を知ることができました。

また、『千夜一夜物語』はアラブ世界では正統派古典作品とは異なる大衆文学作品であるために低い地位にあると先行研究で拝見しておりましたが、ダマスカスのムスリム地区であるカイマーリーヤのマクハー(古典的な大衆用の飲食店)で語り物師が朗々と『千夜一夜物語』を語り、人々がそれに耳を傾けているのを目撃し、現代ではある種観光的な要素を持つものの、かつてこのように語られていたのかと感銘を受けました。

私が過ごしましたダマスカスという都市に関して言えば、伝統的にイスラム教徒とキリスト教徒が混在して住む土地柄であるために、ヒジャーブ(ベール)をしたムスリムの助成と肌も露わなタンクトップに十字架のネックレスを下げた女性達が笑いあって一緒に歩く姿をいつも目の当たりにし、今まで日本国内でのアラブ諸国の映像から受けたのとは違う実際を見ることが出来ました。

一説によりますと市場開放の影響と言われておりますが、私が以前に短期滞在いたしました四年前と異なりシリアの街の様子はかなり変わりました。以前はぼろぼろの壊れかけたバスが走り、店にはレジも無く、街中には果物や水の荷車をひいた馬が走るといった様子でしたが、この短期間に真新しい車やバスが増加し、渋滞も悪化し、人々の衣服も新しくなり携帯電話に至っては日本よりも高額なものを高校生達でさえ所有しているという現象が起こっています。物価の上昇は留学生活的には苦しいものでしたが、人々の生活は良い面も悪い面もあるにしろ、確実に豊かになっていると実感しました。日本製品は高額であるために四年前はほとんど真正品を見たことがありませんでしたが今ではカメラやパソコン、プリンターといった電化製品の本物を見ることも珍しくありません。

人々の暮らしが豊かになった反面、伝統的な建物が壊され近代的な公園等に置き換えられるといった変化も著しく散見されます。このような状況の大きく移り変わりつつあるシリアにこの時期に滞在させていただきましたこと、二年間という長期にわたる支援をいただきましたことに最後にもう一度改めてお礼を申し上げます。